

「産着」にくるまれるお遍路(4月20日 39日目)

作礼山(標高300m)の山頂にある58番札所仙遊寺から、遍路道を一気に下り、それ以降は一般道と遍路道を出たり入ったりしながら歩きます。一本道ではなく、国道、県道、市町村道(遍路道)を渡り歩きながらだったので、緊張気味の歩きです。宿坊での朝の勤行から一日が始まる。こんな余韻のまま一日を歩き切った感じなので、少々距離は長かったのですが、何とか歩けました。宿坊泊まりの歩きお遍路はなかなかいいです。59番札所国分寺の1霊場を巡拝します。

作礼山山頂に建つ58番札所仙遊寺の宿坊泊まりの朝。朝の霧に包まれた山の中で目覚め、ひんやりした空気を胸いっぱい吸う深呼吸が何とも心地よい。キャンプや登山とは違い、穏やかな気持ちの加わった心地よさが何とも清々しい。

朝6時からのお勤め(勤行)がありました。霧に包まれた3km先の57番札所栄福寺の梵鐘が微かに聞こえ、仙遊寺の梵鐘も共鳴するようにしながら霧に煙る山々の中に吸い込まれていきます。梵鐘を打ち終えた住職が庭から本堂に入り勤行が始まりました。

読経を終えてから法話があり、その中で印象に残ったお話がありました。お遍路さんの着る白衣は、一般には「死に衣装」と言われます。しかし、58番札所仙遊寺の住職は、生まれてきた赤子に着せる「産着」ではないかと言うのです。お遍路をすることで生まれ変わるといふ主旨です。勤行が終わってから、ご住職に法話の感想などを伝え、しばらく本堂で立ち話をしました。そんな中で感じたのは、この法話にあった「生まれかわる」とは、お遍路によって新たな自分を知る、新たな自分に気づくと言うことを指すのではないかと思ったのです。

こうした理解は、40日近い歩きお遍路をしてきて、とてもシッカリ来るのです。知らなかった自分というよりは、「やっぱりそうだったか」とか「そこまでやるんだ」等と、自分の考え方の再確認に近い感覚です。自分自身の「取扱説明書」を客観的に読んでいる感じです。この為、意外な自分に出会うということではなく、自分で自分の不器用さや要領の悪さを笑ってしまうことばかりです。私にとっての「生まれかわる」とは、これまでの自分を再確認して、改めてそうした自分と付き合い合うことを確信することのように思います。

58番札所仙遊寺からの下り坂は、「五郎兵衛坂」呼ばれている急坂です。この坂を下りきり、2時間弱で59番札所金山最勝院国分寺(こくぶんじ)に着きます。59番札所国分寺は、伊予(愛媛県)の国府があったところで、かつての国分寺は4km四方の大寺院だったそうで、現在その規模を感じさせるのは、国の史蹟に指定されている13個の巨大な礎石だけです。

巡拝を終えてからは、比較的平坦な遍路道を、一期一会を実感しながら一歩いっば積み重ねました。南三陸町で被災者支援をしていた時、支援員さん達には、「皆さんは、今、1000年に一度の時の時の中にいる。今、その時の中にいるのには、きっと理由かがあるはずだ。今は分からないかが、いつ

かきっと分かるときがくる。その時迄、精一杯心を尽くそう」、というようなことを言っていました。今、私にとっても、この歩きお遍路は、どのような意味があるのか全くわかりません。でも、いつかきっと分かるときがの来るような気がします。今は、一期一会の中でとにかく歩き続ける、それに尽きるように思います。

行程等基本データ(4月20日39日目)

- ・巡拝寺院:1寺巡拝(59番札所)
- ・天気:午前 曇り/午後 晴
- ・歩いた時間:8時間23分/日(7時50分宿発~16時13分着)
- ・歩いた距離:27.6km(平均速度:3.3km/h)
- ・通過市町村:2市(今治市・西条市)
- ・高低差:252m(255m⇄3m)
- ・消費カロリー:2,620kcal